

人工関節で提携

ナカシマHHDと帝人 4月に合併会社

ナカシマホールディングス（HD）、岡山市東区上道北方）と化学・合成繊維大手の帝人（大阪市）は23日、人工関節を手掛ける合併会社「帝人ナカシマメディカル」を4月1日に設立すると発表した。1987年から人工関節を開発・製造してきたナカシマグループのノウハウと、帝人グループのネットワークや素材技術を融合させ、国内トップメーカーを目指す。



合併会社設立を発表した（右から）ナカシマメディカルの中島義雄社長、ナカシマHHDの中島善善社長、帝人グループの荒尾健太郎専務執行役員、帝人在宅医療の坪倉正行取締役

国内トップ目指す 人工関節を融合 開発・製造技術 素材

帝人が、ナカシマHHDの100%子会社・ナカシマメディカルの第三者割当増資を約15億円で引き受け、4月までに50%の株式を取得。折半出資の合併会社とする。

新会社の社長には帝人グループの医療機器メーカー・帝人在宅医療の坪倉正行取締役が就任。ナカシマメディカルの中島義雄社長は代表権のある会長に就く。

ナカシマメディカルは売上高約30億円（2013年度）。人工関節の日本メーカーでは京セラメディカル（大阪市）に次ぐ2位だが、国内シェアは3%程度。ヘルスケア事業医薬品、在宅医療機器を長年、国内外で展開してきた帝人グループの販売網を活用し、欧

米メーカーが8割以上を占める市場を開拓。ナカシマグループの金



ナカシマメディカルが販売している人工膝関節の装着イメージ

課題の営業力強化

解説

人工関節分野では後発のナカシマHHD。帝人との資本提携は、国内市場でも欧米メーカー製品が圧倒的シェアを占める中、課題だった営業力を強化し、反転攻勢に向けた体制を整える狙いが大きい。

ナカシマグループは、プロペラ製造で培ったチタン加工技術を使った人工関節事業に参入。日本人の体格に合わせた製品や耐久性の高い部材開発などに取り組んできたが、国内シェアは約3%にとどまり、幹部は「欧米のビッグネームと戦うには、実績や信用力で力負けしていた」と打ち明ける。

属加工技術と、帝人グループが得意とする樹脂などの高機能素材技術を組み合わせた製品開発にも取り組む。新会社では国内シエ

アを10%に引き上げる。とともに、東南アジアを中心とした海外展開も視野に、20年には売上高100億円を目標としている。

23日は東京でナカシマHHDの中島善善社長、帝人グループの荒尾健太郎専務執行役員らが会見。中島氏は「技術の高さを自負しているが、海外企業の占有率を打破できず、国内

で提携先を考えていたところ、昨春ごろにこの話をいただいた。日本人にあった人工関節で高齢化が進むわが国の医療に貢献したい」と強調。荒尾氏は「重点事業と位置付けるヘルスケア事業で、人工関節をはじめとした医療機器を医薬品、在宅医療機器に続く第3の柱に育てたい」と述べた。（荻田知弥）

一方の帝人は、70年代から医薬品や在宅医療機器を手掛け、国内外に販路を拡大。人工関節の軟骨部分にも使われる樹脂開発などでも高い技術を持ち、成長市場のヘルスケア分野で、自社のノウハウを生かせる領域への事業拡大を模索していた経緯がある。

は2013年の推計で980億円（富士キメラ総研調べ）。高齢化を背景に17年には1030億円に拡大するとされるが、欧米に比べ普及が進んでいないとみられる。ナカシマHHDが掲げる「国内シェア10%」を達成するには、帝人とのシナジー（相乗）効果を発揮し、技術と販売の両面でより強固な基盤を確立することが不可欠だ。（久万真毅）